

# 東京都豪雨対策基本方針の改定について

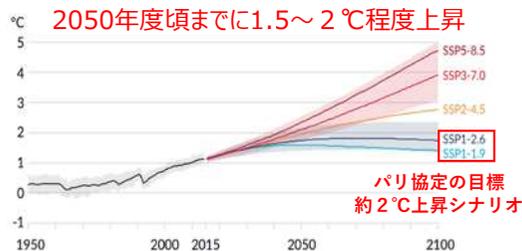
都市整備局・建設局・下水道局

- 令和5年12月に東京都豪雨対策基本方針を改定

## 改定の背景とポイント

### 【背景】

- 気候変動の影響により、豪雨が激甚化・頻発化
- 水害リスクの増加に対応するため、基本方針を改定



世界平均気温の変化(IPCC第6次報告書)



2019(R元)年10月12日  
秋川 (あきる野市)

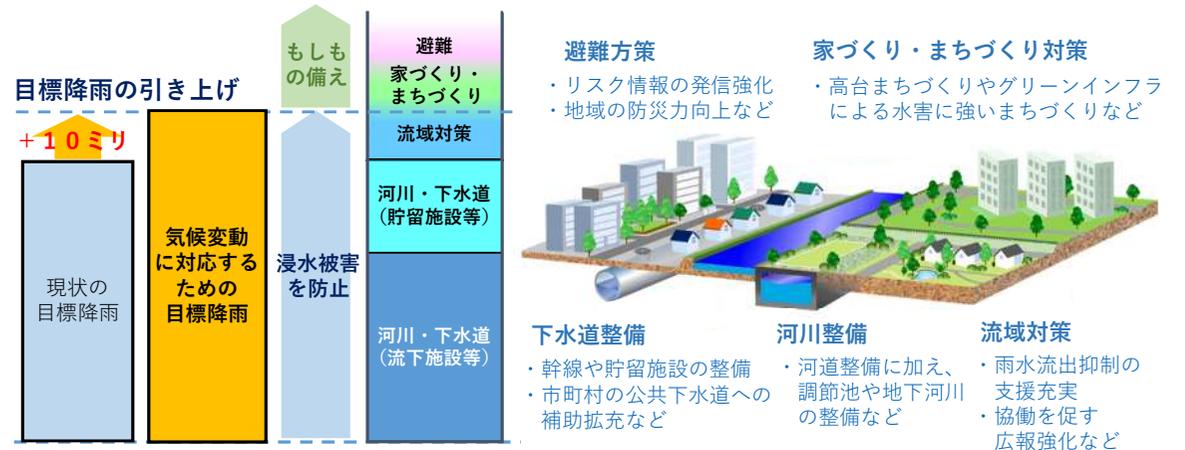
### 【ポイント】

- 気候変動に対応するため目標降雨を引き上げ **+10ミリ**
- これまでの対策の強化に加え、**新たな施策**を展開
- 対策を**先行するエリア**を設定し、都内全域で**段階的に事業展開**
- 目標を超える降雨にも備える (**もしもの備え**)

**気候変動に伴う1.1倍の降雨量に対応**  
気候変動を踏まえ、目標降雨を増加  
**都内全域で +10ミリ**  
都内全域で気候変動を踏まえた年超過確率1/20規模相当

## 豪雨対策の基本方針

- 気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対して、**安全・安心なまち**を目指す
- 気候変動に伴う**降雨量の増加**(1.1倍)に対応するため、**目標降雨を引き上げ**
- 目標降雨に対して、主に**河川整備**、**下水道整備**、**流域対策**で**浸水被害を防止**
- 目標を超える降雨に対しても、**5つの施策**を組み合わせ、**もしものに備える**
- 重点的な対策強化**によって事業効果を早期発現し、都内全域で**段階的に事業展開**



目標降雨と各施策の役割分担

※目標を超える降雨に対しては、リスクの軽減や許容することを含めて、もしものに備える

### 気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対して安全・安心なまち

重点的な対策強化

事業効果の早期発現

段階的な事業展開

対策強化の拡大

気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対して安全・安心なまち

## 豪雨対策の更なる推進に向けて

気候変動に対応した強靱で持続可能な首都東京を目指し、豪雨対策を着実に推進

- ✓ 豪雨対策を進める計画や取組の推進
- ✓ 都民や企業への情報発信強化
- ✓ 最新の技術や知見の活用
- ✓ みんなで取り組むための「人づくり」
- ✓ PDCAサイクルによる事業推進



水害に強い東京に向けて  
みんなで取り組んでいく

「知る」「伝える」「行動する」



みんなで取り組むためのPRや防災教育など

# 大規模地下街等における浸水対策の取組について

都市整備局

- 東京都地下街等浸水対策協議会は、全12地区で約300に上る施設管理者、学識経験者や行政により構成(図1)
- 出水期に備え、全12地区において4~5月に部会を開催。また、5月以降に情報伝達訓練や実働訓練を実施
- 都政等の最新動向の共有を目的として、各部会の代表団体等により構成される幹事会を6月に開催
- 構成員の協力のもと、7~10月にデジタルサイネージ等により「地下街等の浸水避難を支援する映像」を上映(QRコード参照)
- 施設管理者をまたいだ避難誘導の円滑化や利用者視点の取り込みによる避難誘導の実効性向上を目的として、7月に渋谷地区において小学生の親子を対象とした避難訓練イベントを初開催(写真1、2)
- 平成31(令和元)年度から順次進めてきた「避難経路の精査」の取組について、11月に新宿西地区、新宿東地区の2地区において実施(全12地区のうち11地区\*八重洲地区除くで完了)
- これまでの取組を踏まえ、地下街等浸水対策計画を更新するため、全12地区において1~2月に部会を開催



「もしもの事態に心の備えを 地下への浸水 知って、防いで、命を守る」  
全体編



「もしもの事態に心の備えを 地下への浸水 知って、防いで、命を守る」  
避難行動編

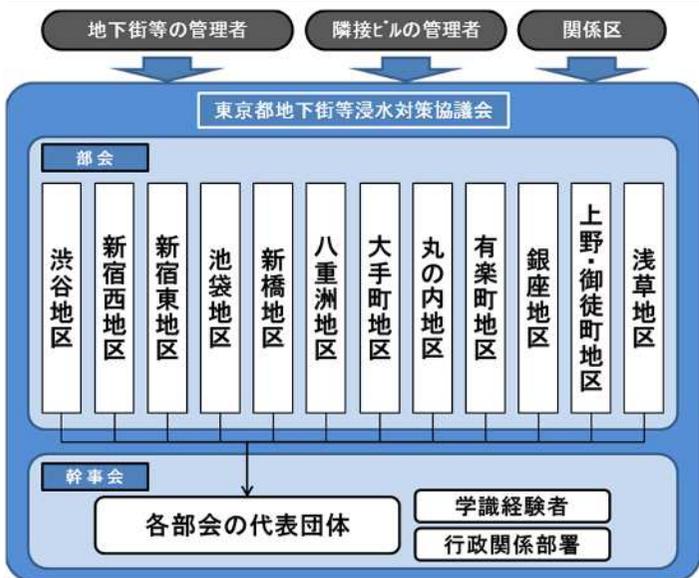


図1 東京都地下街等浸水対策協議会の組織



写真1 施設管理者をまたいだ避難誘導訓練(渋谷地区)



写真2 浸水防止(止水板設置)訓練(渋谷地区)

⇒ 令和6年度以降も、これらの取組を深化させ、浸水被害に課題のある大規模地下街等の浸水対策を加速